

## 開館 40 周年を迎えて

## 日立市郷土博物館

日立市郷土博物館は、2015年（平成27）に開館40周年を迎えました。建設段階から今日に至るまで様々なかたちでご指導・ご協力をいただいた多くの方々に、心より感謝を申し上げます。

1975年（昭和50）4月12日にオープンした当館は、県内初の市町村立博物館となりました。館名のとおり日立市の歴史と文化を紹介する博物館として、原始古代から近現代までの事象について、様々な資料によってご紹介してきました。また日立市には美術館がないことから、当館は開館当初から美術館の役割も担ってきました。

一般に明治末期以降に鉱工業都市として発展したイメージが強いであろう日立市ですが、市域にはもちろんそれ以前にも長い歴史があります。2004年の十王町との合併によってさらにその裾野が広がり、新たな展開をみた側面もあったと思います。

開館当初からのポリシーである「市民の教養と憩いの場」の実現を目指して調査・収集・研究を続け、その成果を広く市民に還元する場として数々の特別展示を催してきました。それぞれに意義ある企画と自負していますが、私が美術分野を担当するようになった約20年前と比べ、展覧会の在り方も大きく様変わりした気がします。

その変化は有り体にいえば、教育普及活動へのニーズの高まりだと思います。ワークショップなどの関連催事やギャラリートークの充実化は当たり前、さらに近年は、館職員と外部の研究者を交えた月6回の各種講座も開催しています。夜間に照明を落とした展示室を案内する「よるのはくぶつかん」、隣接するかみね動物園と連携して実際の動物と博物館資料とをクロスさせながら生態を見ていこうとする「ズーハク」などのイベントも、新たな試みとして参加者からは概ねご好評をいただいています。またいくつもの自主学習グループとの協働も、その研究成果の共有と利用者全体へのフィードバックとして、出版や展示などにおいてますます盛んです。

東日本大震災で大被害を受けた当館は、工事のための休館を経て2014年4月に再開することができました。そして再開後もなく40周年を迎え、記念式典と関連企画は職員一同、数々の市民の方々のご協力にあらためて感謝の念を抱く機会となりました。「市民あつての博物館」との心持ちで、これからも邁進してまいります。今後ともご指導のほどをよろしく願います。

（大森潤也）



ズーハク『解説トレード』の様子。クマの前で解説する縄文人？



開館記念式典（1975年4月）でのテープカット

## ●目次

日立市郷土博物館	1
平成27年度研修会報告	2.3
館・展示紹介 取手市埋蔵文化財センター	4
館・展示紹介 牛乳博物館	5
会長コラム 茨城県博物館協会会長 金子賢治	6
茨城県博物館協会加盟館・園一覧	7
随想 偕楽園好文亭・特別史跡旧弘道館	8
つくばエキスポセンター	8

# 平成27年度 茨城県博物館協会研修会報告

今年度の研修会は、2016年2月4日(木)茨城県陶芸美術館を会場として開催いたしました。概要及び内容は以下のとおりです。

## 1 研修会概要

### (1) 展覧会概要及び解説

「いばらき工芸大全Ⅱ 金工の巻について」

講師：今瀬佐和 主任学芸員  
茨城県陶芸美術館

### (2) 講演

「歴史で地域活性化 ～日本を元気に～」

講師：早川知佐 氏  
歴史プロデューサー「六龍堂」  
信州上田観光大使

## 2 内容についての報告

### (1) 展覧会概要及び解説

研修会会場である茨城県陶芸美術館で開催されている「いばらき工芸大全Ⅱ 金工の巻」について、展覧会担当の今瀬主任学芸員より展示の様子や作品の解説がありました。

#### ① 展覧会趣旨

「いばらき工芸大全」は陶芸にとどまらず、工芸全体に目を向けたシリーズの展覧会であり、第2回の今回は金工をテーマとしています。茨城の金工は、まとまって紹介される機会が少なく、作品名や作家名がすぐに思い浮かばないのが現状です。しかし、この機会にたくさん素晴らしい作品があることをぜひ、再発見して欲しいと思います。

展覧会を組み立てる上では、近世・近代で区切らない展示ができる利点を活かす、茨城在住作家だけではない茨城ゆかりの人物も取り入れる、資料的価値が高いだけではなく、形状が金工品として見応えがあるものを選ぶ等工夫しました。また、当時の輝きを伝えるためレプリカも積極的に活用しました。

#### ② 水戸金工について

江戸時代には水戸金工と呼ばれる刀装具が興隆しました。現在は知る人も少なくなりましたが、多い時には400人もの職人が腕の高い技術力を競っていたと言われています。刀装具の細かい技を観ていただくために展示室では、拡大写真や作品の裏側の写真を併せて展示しました。

水戸金工の技は、明治時代以降も海野勝珉らの活躍により近代の金工作品制作に継承されました。勝珉の息子の海野清は、東京美術学校で金工を学び、水戸金工特有の彫技も継承し、彫金の分野で初めての重要無形文化財保持者に認定されました。

#### ③ 茨城工芸会について

茨城工芸会は現在は県内在住の作家を中心に構成されています。しかし、昭和5年に陶芸家の板谷波山の呼びかけで結成された当時は、東京で活躍していた茨城出身の海野清や介川芳秀といった金工作家が主体となった会でした。在京の作家達が自分達の作品を東京から水戸へ持って行き、展覧会を開き、そのたびに県

内の作家を養成する活動も行っていました。彼らの活動は、県内に作家を育てるという目的を果たしただけではなく、消えかけていた茨城の工芸文化の継承につながったといえます。



### (2) 講演会

早川氏は、歴史プロデューサーとして歴史イベントやグッズ開発のプロデュースを手がける一方、歴史上の人物ゆかりの地においてさまざまな町おこしを実施されるとともに、「歴史で地域活性化＝日本を元気に」をモットーに地域を問わず、歴史ファンの交流活性と地域活性化にも努められています。講演では、観光大使を務められている長野県上田市の歴史を通しての町おこしの実例等を基にお話いただきました。

#### ① 歴史で地域活性化を推奨する理由

日本人は自分の国の文化や歴史を知らない、または誇る文化がないと思っています。

若い人は歴史に興味がなく、地元の良さや素晴らしさを知らずに都会へ出てしまいます。地方の過疎化が進み、その土地の歴史を守り伝える方が高齢になり、ここまで残された歴史や文化を次の世代につなぎ残していけないのではということに気づきました。若い人が地元に着かない、歴史に興味がないことは由々しき問題であり、歴史を知ることによって誇りを持って素晴らしさに気づくことができると思います。地方の底力・可能性について歴史を通して知って、未来にバトンをつないで行きたいという思いがあります。

#### ② 歴史で町おこしの実例

今年1月からの大河ドラマ「真田丸」の舞台となっている長野県上田市の取り組みを紹介します。

真田発祥の地である真田町がある上田市は「真田の里」があるということを観光の中心に据えて町おこしを始めました。約30年前に放映された「真田太平記」(原作 池波正太郎氏)をきっかけとし、「真田太平記館」を立ち上げ、以下のような取り組みをしています。

- ・街全体を真田に染める。(真田家の家紋や旗を町中に設置したりデザインしたりする)

上田市に来たら、ここは真田の地であることがわかるよう視覚から入り、街全体を真田に染めることで、真田はこの土地で愛されている、この土地に根付いているということがわかります。

- ・ゲーム、アニメとのタイアップ

2005年頃に歴史とゲーム・アニメとのタイアップにより若い女性の間で歴史が盛り上がり、「歴女ブーム」となりました。以前は年上の方が多かったが近年は若い女性が増加しています。インターネット等により情報収集し上田へ行き、決まり切った観光地よりマニアックな部分を訪れる方が増えています。歴史を伝えていくには若い人の興味を引くゲーム・

アニメとのタイアップも重要な要素です。ミーハーと捉えるのではなく、流行り物の移り変わりをきちんと捉えられるかどうかで歴史文化の生き残りにかかってきます。

ゲームとタイアップしスタンプラリーも実施し、その土地に行かないとグッズが手に入らない等来てもらうきっかけ作りになっています。毎年開催している「上田真田まつり」は以前は千人弱の地元まつりでしたが、歴女ブーム以降は口コミ等により6万人を動員する大きなイベントとなっています。

- ・キャラクターでPR

違う形で地元をPRする、キャラクターを通して歴史に興味を持ってもらうことで、歴史に興味のなかった人にも来てもらうきっかけ作りになります。

- ・食をつかったのPR

真田家家紋をデザインしたメニューや地元の食材を使用し、地元の特産品もPRできます。上田に来るとこういうものが食べられる、また来たいというおもてなしにもなります。

- ・関係地域との連携

真田幸村はいろいろな土地に関係があり、真田氏が統治した地を結び「真田街道」とし、各地域が連携してそれぞれの情報交換や情報発信をしています。

### ③ 課題

- ・PRや告知があまり上手くない。

特に行政のPRはターゲットがずれていたり、発信が遅いです。以前は、歴史旅は年配の方のイメージでしたが、現在は情報収集の方法が変わってきており、インターネットやSNSで情報収集する若い人が多く、情報のスピードも速くなっています。以前の告知は1ヶ月前が当たり前でしたが、今は3ヶ月前には告知しないと人が集まらないということを実感しています。

- ・行政と民間の連携ができていない

行政のバックアップがないと継続できない、行政と民間が一緒に街を盛り上げていくことが大切です。

- ・地元の人が真田を知らない

地元の歴史を学校教育に盛り込めていないため子どもたちが真田を知らない、大人が知らないから子どもに教えられる。子どもたちに教えていく土壌がないのは、歴史が根付いていない証拠になります。そういった歴史の町おこしは長続きしないのが現状です。

### ④ 歴史でまちづくりのポイント

- ・古の人達と空間を共有するという考え

歴史で旅をすることは、その場所に行ってその歴史を感じたいということで、その土地をいかにプロデュースできるかです。→何もなくて終わらせない。

- ・「好き」で作ること、「好き」だけで作らないこと

好きで作らないと観光資源になるものにはなりません、好きだけで作ると視野が狭くなったりマンネックになったりしがちなので、偏らないように。

- ・どこに「個性」のポイントを絞るか

欲張ってしまうと本当に見せたいものがぼやけて

しまいます。

ポイントが絞れないとお金も人ももたなくなってしまう。

- ・「まち」は「なに」が、「ひと」は「なに」が欲しいのか

町おこしは目標を掲げることで長く続けられます。長く続けないと結果も出ません。

地元の人たちやその町がどうしたいか目的をしっかり持って欲しいと思います。

- ・子どもたちに伝えていく

子どもたちに伝えていくことは、博物館関係者のみなさんとも共通することだと思います。歴史はここで盛り上げて終わりではなく、先人からのバトンをさらに次の世代につないでいかなくてははいけません。子どもにわかりやすくとしがちですが、大人の思い込みだけで難しい・早いと振り分けをせずに子どもたちへ早め早めに伝えていくべきです。

大人の固定観念を取り払って子どもたちに自分たちの土地に誇りをもてるような歴史を伝えていって欲しいと思います。

### ⑤ 最後に

歴史は壊れたら二度と元には戻りません。例えば松本城のような城が今でも人気があるのは、建てられたその時代から現在までつながっているという価値があるからです。途中で途切れてしまったら価値がなくなってしまいます。当たり前のことですが、日本人はそのことに無意識になっています。海外からの観光客には、日本らしい昔ながらの町並みがある京都に人気があります。その当時のものが残っていてその時間の流れを観に来ています。しかし、日本はそういう町並みを残してこれなかった国です。

今残っているものを死守していかないと次の世代に残せるものがなくなってしまいます。古いからといって壊してしまったらこれまであった価値はなくなってしまいます。

地元の人が地元の歴史に誇りをもって盛り上げていくのに何の遠慮もいらないと思います。その土地が誇りに思っているものは積極的にPRし、バトンとしてつないでいくべきです。それが歴史で地域活性化の本来の意味であると思います。歴史を知ることによってその土地に誇りを持ち、愛着を持つ若い人が根付いてくれることによって活性し、歴史を通じて自分達の土地の魅力に気付いて守りぬく土壌を作って、それが全国各地に広まったいろいろな地域が活性化して日本が元気になっていくのではと思います、「歴史でまちづくり」というテーマを掲げています。

日本人が日本を誇る、地元の人が地元を誇ることに何の遠慮もいらないと思います。自分達の歴史文化を誇り、PRしていつか次世代に日本の魅力、地元の魅力＝バトンをつなげていけたらと思います。



## 館・展示紹介

取手市には、旧石器時代から中世、そして水戸街道の宿場として栄えた近世の宿場跡に至るまで、現在、約90か所の遺跡が確認されています。

一部が市の史跡に指定されている「中妻貝塚」は、直径約150m、25,000㎡の範囲に厚さ1～2mの貝層が分布する利根川流域で最大規模の環状貝塚とも言われ、明治25年(1892)の『東京人類学会雑誌第72号』を始め、明治時代より数多くの学会誌に取り上げられている、早くからその名が知られていた著名な貝塚です。また、平成4年には、遺跡の南西部より百体以上が埋葬された非常に特殊な集団埋葬墓が、全国で初めて発見・調査され、全国的に大きな話題となりました。

この中妻貝塚の調査資料を始め、市内の埋蔵文化財保護体制の中核施設として、取手市埋蔵文化財センターは平成11年に開館しました。

また、取手市は、江戸時代に入り、江戸と水戸を結ぶ水戸街道が整備されたことに伴い、取手宿、藤代宿、宮和田宿の3つの宿場が交通の要衝として栄えました。加えて、代官伊奈半十郎忠治の指揮による小貝川の堰の造営と新田開発により相馬2万石と謳われた大穀倉地帯が江戸時代に大きく発展し、宿場とともに現在の市域形成の礎となりました。取手市ではこれらの歴史を紐解き、後世に伝えるために、昭和51年より市史編さん事業に着手し、平成8年の終了までに通史編3冊、資料編16冊などを発刊し、約5万点の郷土資料を整理・収集しました。

センターの運営に当たっては、市史編さん事業によって収集された郷土資料も引き継ぎ、センターで保管や追加調査等を実施しています。

埋蔵文化財センターでは、埋蔵文化財資料だけでなく、これらの郷土資料も合わせて、年に2回企画展を開催しており、平成27年度までに企画展を39回開催しています。開催期間中は、歴史講演会や郷土史講座などのイ



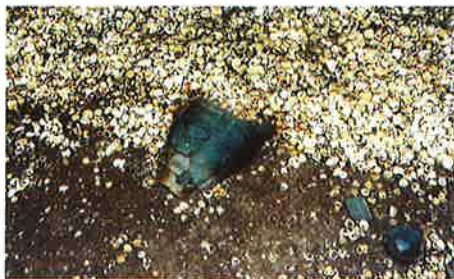
埋蔵文化財センター正面

## 取手市埋蔵文化財センター

ベントも開催し、取手市の郷土資料館的役割も担っています。(企画展の期間やテーマは、直接お問い合わせください。)



展示室



中妻貝塚縄文土器出土状況

場 所：〒302-0007 茨城県取手市吉田 383 番地

電 話：0297-73-2010

開館時間：9:00～17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12/29～1/3) (企画展開催期間中は月曜日に変更。ただし、月曜日が祝日の場合は翌日)

料 金：無料

企画展開催期間：春の展示 2月中旬～4月中旬

夏の展示 7月中旬～9月中旬

交通アクセス：取手駅東口から大利根交通バスで吉田下車または関東鉄道バス龍ヶ崎・光風台行きで青柳南下車いずれも徒歩約10分、コミュニティーバス中央循環東ルート・東南部ルートで取手東小入口下車徒歩約7分車…常磐自動車道谷和原ICより取手市・利根町方面約30分



「牛乳博物館」は、古河市にあるトモエ乳業株式会社の創業者中田俊男が酪農産業や文化に関するコレクションを展示するために、平成6年(1994年)に本社内に150㎡の展示室を設け開設しました。当時から全てのコレクションを展示することが出来ず平成12年(2000年)に300㎡に展示室を拡張し、今日にいたっています。

中田俊男は自分自身が牛や牛乳・酪農のことをもっと理解して好きになりたいと考え、約50年かけて世界150ヶ国から酪農や乳業に関する資料を収集しました。そして「産業の中に文化あり」をモットーとする中田俊男は地域の人たちに「人と牛のかかわりや歴史、世界の酪農文化を知ってほしい」と5000点に及ぶコレクションを博物館に展示しました。

展示品は中田俊男自身が海外の酪農家を直接訪ねて集めたものが多く、国内にない品を多数陳列しているのが特徴で、日本はもとより世界でも大変珍しい博物館といわれています。

館内には、さまざまな民具がテーマごとに展示されています。中でも貴重なのが牛乳瓶のコレクションです。江戸時代末期のネジ付ギヤマン瓶や明治10年代に使用された5勺のブリキ缶、昭和に入って普及した牛乳瓶の最初の掛紙なども見られます。時代ごとに並べられた牛乳瓶はさまざまな形や大きさがあり、そこから時代の移り変わりや技術の進歩を感じられます。

またヨーロッパや東アジアの酪農家が実際に使っていた素朴な手造りのチーズ製造器具や木製のバターチャーンには、現在の乳業機器の原点を見ることが出来ます。中には200年以上前から使われていたチーズの圧搾器もあります。ネパールの酪農家から譲り受けた素焼きの器にはヨーグルトが付いたそのまま、農家の名前も記されているので当時を偲ぶことができます。更に昔の搾乳機や牧草かまなどの酪農器具、牛の首に付けたカウベ

ル、世界の牛乳パック、関連書籍など幅広い品が展示されており、楽しみながら世界各地の牛乳・乳製品の歴史を学ぶことができ、小学生からお年寄りの方まで幅広い見学者に喜んでいただけると思います。

牛乳博物館は平成25年12月より公益財団法人中田俊男記念財団となり、今後さらに展示品の内容を充実させ、どなたでも楽しく見学して頂ける博物館になるよう努めてまいります。



音色の異なる世界のカウベルの展示



展示品は3つの資料室にグループ別に展示



古い牛乳瓶を時代別に展示

場 所：茨城県古河市下辺見 1955

電 話：0280-32-1111

開館時間：10:00～16:00(原則)

休 館 日：日曜日・年末年始

見学時間：原則 1時間30分

料 金：無料

申 込：電話予約(平日9:30～16:30)

原則3名様以上でお願いしております

交通アクセス：JR古河駅西口より朝日バスを利用(境車庫行き思案橋下車、徒歩1分)※バス・自家用車用駐車場も利用可

博物館ホームページ：<http://www.milkmuseum.or.jp>

メールアドレス：[info@milkmuseum.or.jp](mailto:info@milkmuseum.or.jp)



牛乳博物館はトモエ乳業(株)の本社社屋に併設



# 会長コラム



金子賢治  
(茨城県博物館協会会長)

## 博物館

県ないし地域の産業振興、文化振興に有効な基礎として、無形文化財制度、世界遺産・無形文化遺産制度、地域の名前を関した陶芸ないし工芸の公募展を様々に絡ませることが有効な手段の一つであると考えている。

先日、無形文化財制度実行の活発な県の一つである鳥取県の文化財保護審議会によって、「革工芸」を無形文化財工芸技術に指定することと、その保持者に本池秀夫氏を認定することが答申された。革工芸が無形文化財に指定されるのは、無形文化財思想の母国である日本でおそらく初めてであり、海外でも大変珍しいことではないだろうか。

あまり一般的に知られてはいるが、日本の革工芸は4、5世紀の古墳時代や正倉院御物をはじめとして古代から豊かな作例を遺している。平安末から中近世にかけての武器武具の革所、桃山～江戸時代の服飾、袋物などには、大量の遺例の中に、布巾の染織と不即不離の関係を保ってきた実に豊かなデザイン、色彩、技法が息づいているのである。

それが近代に入ると急速に変貌していく。陶芸や漆芸など他の工芸分野と比べると作家活動の規模がかなり小さい。一方で靴、カバン、服飾などの産業は巨大な市場を形成し、空気の如く当たり前に存在している。近年、その狭間の中に手作りの良さを遺憾なく発揮する制作者が数は少ないが確実に登場してきている。本池さんはおそらくその頂点に立つ一人であろう。

そうした制作者を無形文化財保持者に認定するということは、その仕事を歴史的、芸術的に位置づけるということである。その仕事や周辺の後継者、また各地の同業の士を励ますことにもなる。京都府、岐阜県、岡山県などでも県や市単位でこうした指定・認定活動が行なわれている。作り手を励ますと同時に県外から見た場合の魅力と分かりやすさを提供することにもなる。

茨城県にもこれが欲しい。平成27年12月に制定、施行された「茨城県文化振興条例」にも「地域固有の伝統文化（歴史及び風土に根ざした伝統的な行事、民俗芸能、伝統工芸その他の地域固有の伝統文化をいう）、我が国古来の伝統文化（茶道、華道、伝統芸能その他の我が国古来の伝統文化をいう）の継承と発展に必要な施策を講ずる」とある。さらにその人材の育成と確保、貢献した者の顕彰、そして有形無形の文化財並びにその保存技術の保存、活用のための施策についても言及している。これらが無形文化財の指定、保持者の認定の思想と結びつき、のびやかな発展の過程を辿ることを望みたい。

## 平成27年度事業報告

- 理事会 平成27年6月5日（金） 茨城県陶芸美術館
  - 平成26年度事業報告及び決算報告について
  - 平成27年度事業計画（案）及び予算（案）について
- 総会 平成27年6月5日（金） 茨城県陶芸美術館
  - 平成26年度事業報告及び決算報告について
  - 平成27年度事業計画（案）及び予算（案）について
- 研修会 平成28年2月4日（木） 茨城県陶芸美術館
  - 展覧会概要及び解説「いばらき工芸大全Ⅱ 金工の巻について」  
講師 今瀬佐和 主任学芸員  
茨城県陶芸美術館
  - 講演「歴史で地域活性化 ～日本を元気に～」  
講師 早川知佐 氏  
歴史プロデューサー「六龍堂」  
信州上田観光大使
- 出版 「いばらきの博物館2015」発行 平成27年8月  
「茨城県博物館協会NEWS No.41」発行 平成28年3月
- ホームページ運営 <http://ibaraki-museums.jp/>

茨城県博物館協会加盟館・園一覧

(2016.1.現在)

No.	館 園 名	郵便番号	住 所	電話番号
①	北茨城市歴史民俗資料館 野口雨情記念館	319-1541	北茨城市磯原町磯原130-1	0293-43-4160
②	茨城県天心記念五浦美術館	319-1703	北茨城市大津町椿2083	0293-46-5311
③	高萩市歴史民俗資料館	318-0034	高萩市高萩8-1	0293-23-7229
④	日立市郷土博物館	317-0055	日立市宮田町5-2-22	0294-23-3231
⑤	日鉱記念館	317-0055	日立市宮田町3585	0294-21-8411
⑥	日立市かみね動物園	317-0055	日立市宮田町5-2-22	0294-22-5586
⑦	常陸太田市郷土資料館	313-0055	常陸太田市西二町2186	0294-72-3201
⑧	和紙人形美術館 山岡草常設館	319-3543	久慈郡大子町左貫1920	0295-78-0511
⑨	西ノ内和紙のさと資料館	319-3107	常陸大宮市舟生90	0295-57-2252
⑩	常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館・山方館	319-2265 319-3111	(大宮館) 常陸大宮市中富町1087-14 (山方館) 常陸大宮市山方969-2	0295-52-1450 0295-57-2616
⑪	那珂市歴史民俗資料館	311-0121	那珂市戸崎428-2	029-297-0080
⑫	原子力科学館	319-1112	那珂郡東海村村松225-2	029-282-3111
⑬	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター	312-0011	ひたちなか市中根3499	029-276-8311
⑭	ひたちなか市武田氏館	311-0025	ひたちなか市武田566-2	029-276-2525
⑮	アクアワールド茨城県大洗水族館	311-1301	東茨城郡大洗町磯浜町8252-3	029-267-5151
⑯	大洗海洋博物館	311-1301	東茨城郡大洗町磯浜町6890	029-266-1444
⑰	大洗町幕末と明治の博物館	311-1301	東茨城郡大洗町磯浜町8231-4	029-267-2276
⑱	願入寺開基堂(資料館)	311-1301	東茨城郡大洗町磯浜町7920	029-266-2334
⑲	大洗美術館	311-1301	東茨城郡大洗町磯浜町8249	029-266-2637
⑳	偕楽園好文亭・特別史跡旧弘道館	310-0033	水戸市見川1丁目1251(茨城県水戸土木事務所偕楽園公園課)	029-244-5454
㉑	常磐神社 義烈館	310-0033	水戸市常磐町1-3-1	029-221-0748
㉒	徳川ミュージアム・西山荘(分館)	310-0912	水戸市見川1-1215-1(徳川ミュージアム)	029-241-2721
㉓	茨城県近代美術館	310-0851	水戸市千波町東久保666-1	029-243-5111
㉔	茨城県立歴史館	310-0034	水戸市緑町2-1-15	029-225-4425
㉕	水戸市立博物館	310-0062	水戸市大町3-3-20	029-226-6521
㉖	(公財)常陽藝文センター	310-0011	水戸市三の丸1-5-18	029-231-6611
㉗	水戸芸術館 現代美術センター	310-0063	水戸市五軒町1-6-8	029-227-8111
㉘	常陽史料館	310-0024	水戸市備前町6-71	029-228-1781
㉙	常磐大学 博物館学博物館	310-8585	水戸市見和1-430-1(常磐大学キャンパス内)	029-232-2511
㉚	笠間市立歴史民俗資料館	309-1722	笠間市平町29	0296-77-8925
㉛	(公財)日動美術財団 笠間日動美術館	309-1611	笠間市笠間978-4	0296-72-2160
㉜	笠間稲荷美術館	309-1611	笠間市笠間1	0296-73-0001
㉝	田中嘉三記念館	309-1626	笠間市下市毛向山1377-2(芸術村)	0296-72-3309
㉞	茨城県陶芸美術館	309-1611	笠間市笠間2345(笠間芸術の森公園内)	0296-70-0011
㉟	ひょうたん美術館	319-0107	小美玉市小岩戸1677	0299-48-4088
㊱	小美玉市玉里史料館	311-3433	小美玉市高崎291-3	0299-26-9111
㊲	小美玉市小川資料館	311-3423	小美玉市小川1664-2	0299-58-5828
㊳	長勝寺 宝物陳列室	311-2424	潮来市潮来428	0299-62-3808
㊴	鹿島神宮宝物館	314-0031	鹿嶋市宮中2306-1	0299-82-1209
㊵	神栖市歴史民俗資料館	314-0144	神栖市大野原4-8-5	0299-90-1234
㊶	かすみがうら市郷土資料館	300-0214	かすみがうら市坂1029	029-896-0017
㊷	土浦市立博物館	300-0043	土浦市中央1-15-18	029-824-2928
㊸	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	300-0811	土浦市上高津1843	029-826-7111
㊹	つくばエキスポセンター	305-0031	つくば市吾妻2-9	029-858-1100
㊺	産業技術総合研究所 地質標本館	305-8567	つくば市東1-1-1中央第7	029-861-3750
㊻	つくば市立谷田部郷土資料館	305-0861	つくば市谷田部4774-18(谷田部交流センター3階)	029-836-0139
㊼	茨城県つくば美術館	305-0031	つくば市吾妻2-8	029-856-3711
㊽	国土地理院 地図と測量の科学館	305-0811	つくば市北郷1	029-864-1872
㊾	つくばみらい市立間宮林蔵記念館	300-2335	つくばみらい市上平柳64	0297-58-7701
㊿	龍ヶ崎市歴史民俗資料館	301-0004	龍ヶ崎市馴馬町2488	0297-64-6227
1	取手市埋蔵文化財センター	302-0007	取手市吉田383	0297-73-2010
2	利根町立歴史民俗資料館	300-1615	北相馬郡利根町中谷967	0297-68-4600
3	予科練平和記念館	301-0302	稲敷郡阿見町廻戸5-1	029-891-3344
4	真壁伝承館	300-4408	桜川市真壁町真壁198	0296-23-8521
5	月山寺美術館	309-1451	桜川市西小墾1677	0296-75-2251
6	岩瀬石彫展覧館	309-1343	桜川市亀岡741	0296-75-1550
7	下妻市ふるさと博物館	304-0056	下妻市長塚乙77	0296-44-7111
8	しもだて美術館	308-0031	筑西市丙372	0296-23-1601
9	本場結城紬染織資料館「手織り」	307-0001	結城市結城12-2	0296-33-3111
10	八千代町歴史民俗資料館	300-3572	結城郡八千代町菅谷1017-1	0296-48-0525
11	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	306-0622	坂東市大崎700	0297-38-2000
12	さしま郷土館ミュージズ(坂東市立猿島資料館)	306-0502	坂東市山2726	0280-88-8700
13	境町歴史民俗資料館	306-0431	猿島郡境町西泉田1326-1	0280-81-3353
14	古河歴史博物館	306-0033	古河市中央町3-10-56	0280-22-5211
15	(公財)中田俊男記念財団 牛乳博物館	306-0235	古河市下辺見1955	0280-32-1111

個人会員

1	海野 修	306-0012	古河市旭町 2-17-27
---	------	----------	---------------

■色は歴史・民俗 ■色は美術 ■色は自然・科学 ■色は産業 ■色は動物  
※【「いばらきの博物館 2015」】の館番号に対応しています。

## 日本遺産認定を記念して

平成 27 年 4 月、旧弘道館と常磐公園（偕楽園）は茨城県水戸市の構成文化財として、旧水戸彰考館跡・日新塾跡・大日本史と共に日本遺産に認定されました。日本遺産のタイトルは「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」で、栃木県足利市・岡山県備前市・大分県日田市との連携で認定が実現しました。日本遺産認定を祝して、旧弘道館と偕楽園好文亭には多くの観覧者が訪れ、市民が地元の文化財を再認識する好機にもなっています。

旧弘道館では、日本遺産認定を記念してのパネル展やイベントを開催しました。特に、小中学生を対象に夏休みに開催した「江戸時代の和算・論語の授業体験」は、日本遺産のタイトルにある「学ぶ心」（和算を解く喜び）や「礼節の本源」（論語を音読し言葉の意味を身につける）を重要文化財の至善堂で実際に体験できるイベントで好評を得ました。

旧弘道館と偕楽園好文亭は、文化財としての保存を重視しながら、活用にも力を注ぎ、創設者徳川斉昭が示した「一張一弛」の構想に基づいた魅力の発信に努めたいと思っています。

（偕楽園好文亭・特別史跡旧弘道館）



弘道館正庁外観

## つくばエキスポセンター入館者 500 万人突破

国際科学技術博覧会（略称：科学万博 - つくば'85）は、1985 年 3 月 17 日から同年 9 月 16 日までの 184 日間にかけて行われました。期間中、日本を含む 48 カ国と 37 の国際機関が参加し、総入場者数は、約 2,033 万人でした。

国際科学技術博覧会の閉幕後、1986 年に最新の科学技術や身近な科学に親しみを持ってもらえるように政府出展施設を科学館「つくばエキスポセンター」として開設しました。世界最大級の規模を持つプラネタリウムや実物大の H- II ロケットの模型が特徴です。

2015 年は科学万博開催から 30 周年目の年でした。お陰様で、同年 8 月には開館以来の入場者が 500 万人を突破しました。タイムカプセルの開封や新しく封入する式典等にも多くの方々に参加しました。

一方、1 階、2 階の展示場では、子供たちが触って科学を楽しめる参加体験型の展示に力を入れています。また、「つくばエキスポセンター」が年間 4 回独自に企画・制作しているプラネタリウム番組は、一昨年からは耳の不自由な方に宇宙の美しさを実感して頂けるように字幕表記やイヤホン等の補聴援助システムを導入しました。昨年からは海外からの来館者にプラネタリウム番組を楽しんで頂けるように英語版の番組制作に挑戦しています。

（つくばエキスポセンター）



入館者 500 万人達成イベント

### 編集後記

茨城県近代美術館より事務局を引き継ぎ一年が終えようとしています。おかげ様で無事に本紙を発行できましたこと、また、ご多忙の中、原稿を執筆いただきました会員の皆様に心より感謝申し上げます。

今年度の研修会では、「歴史で地域活性化」というテーマで外部講師の早川知佐氏より講演をいただき、参加した会員の方からは参考になった等の好評のご意見をいただくことができました。今後も会員皆様の活動等の一助となるよう、またお互いに研鑽を積む場になるよう努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍を心より祈念いたします。

茨城県博物館協会ニュース  
No.41

編集・発行  
茨城県博物館協会

〒309-1611

笠間市笠間 2345

茨城県陶芸美術館

TEL 0296-70-0011

FAX 0296-70-0012

印刷 (株)光和印刷